



アッサムニオイザクラの産地強化

「総合技術普及センター」

アッサムニオイザクラは、インドのアッサム地方原産のアカネ科ルクリア属の常緑低木です。比較的冷涼な気象条件を好むことから、富士北麓地域で20年前から栽培が行われ、地域の基幹作物として産地化が図られています。

総合技術普及センター花き専門科では、品種の多様化による産地強化を図るため、農家育種の支援に取り組んできました。これまで、花色は白一色でしたが、白以外の異なる花色の4品種が育成され、種苗登録申請が行われました。また、農家の育成品種については、栽培技術の確立と普及を図り、富士北麓地域での生産拡大を推進しています。

さらに、花き類全体に市場価格が低迷している中で、より優位販売を図るため、県単事業「花のやまなしブランド化事業」を導入して、「富士のにおいざくら」を統一ブランドとして販売促進用のポスターやラベルを作成し、販売強化に向けた支援を行っています。



草地更新で粗飼料の高品質化を図りましょう。

「畜産技術普及センター」



●トラクターによる牧草の播種



採草地や放牧地は長い間使い続けると土壌の理化学的の劣化等により生産性が低下しやすいので、定期的な草地の更新が必要です。

畜産技術普及センターでは、放牧利用に優れたペレニアルライグラスを用いて放牧地の簡易更新法について検討し、作業が容易であることや草地の利用中断期間も短いなどのメリットのあることを確認しました。

畜産経営は、昨年来の原油高、飼料価格高騰の影響を受け大変厳しい状況にあります。経年草地は優良品種の導入と併せて更新を行い、粗飼料の栄養価や品質を高めるとともに、安全・安心に配慮したエサづくりを行うことが求められています。

GAP(農業生産工程管理手法)を導入しよう!

「専門指導スタッフ」

GAP (Good Agricultural Practice ギャップ)とは、生産者自らが、農業生産工程の全体を見通して、農作業安全や食品安全、環境保全などの観点から特に注意すべき事項(点検項目)を定め、これに沿って農作業を行い、記録・検証し、農作業の改善に結びつけていく手法のことです。



本県においては、県とJAグループ等関係団体等が連携する中で「GAP導入推進会議」を設置するとともに、現場段階へきめ細かな対応ができるよう総合技術普及センターにGAP導入プロジェクトチームを設け、取組を開始しました。

今後は、各地域普及センター毎に、地区推進会議を設置し、研修会の開催や生産管理確認事項(チェックシート)の作成等を行い、各地域、産地でのGAPへの取組を支援していきます。

平成20年度・農作業安全運動実施要領

●要旨

近年、農業機械は、大型・高性能化等により、生産性を大きく向上させたほか、農業構造改善等に大きな役割を果たしてきました。その一方、農作業事故の危険性も増大してきています。

このため、農業機械の利用頻度が高くなることが予想される期間を重点期間として設定し、農業者の安全意識の啓発を図ります。

●期間=平成20年10月1日から31日

●実施主体=山梨県農政部

●テーマ

農作業は、焦らず、急がず、慎重に!